

明日の日本、明日の歯科界をシミュレートする (5)

今まで4回に渡ってシミュレーションによってできることについて簡単にお話しして来ました。しかし、今、私が力を注いでいるのは従来の自然科学を対象とするシミュレーション「科学」ではなく、シミュレーション「学」です。この違いは、モノや自然を対象とするのではなく、ヒトや社会を対象とするもので、世界にまだ存在しない新しい学問領域です。私が名づけた領域です。

リーマンショックが現在でも脱出の方向性が全く見いだせないどころか、ますます混とんとし、ギリシャ、イタリア、スペイン、フランスへと広がりを見せ、やがて日本、アメリカと広がり、大きさに言うと、5000年続いた人間文明の大きなターニングポイント、あるいは、終焉に向かって加速していると言わざるを得ない状態に達しているというのが私の考えです。

世間の学者は無責任に未だに先端化、効率化、グローバル化、と叫んでいますが、これは現在の閉塞性、息詰まり感をますます加速させ、終焉への道に加担しているだけです。

この状態からの脱出には、民主党の大低落が如実に示したように、政策的にいかにも良いと考える政策を実行しようとしても、もはや現代社会は専門化、先端化、が極端に進み、しかも、21世紀に入ってモノ生産経済から情報を売る情報産業に移り極度に専門化・先端化されきった無数の枝葉は、張り巡らされた光速情報網によって、五感でとらえることのできない速さで複雑に結び付けられてしまっており、トップダウン政策では解決の妙案を見出せないと考えています。

このような状況判断から、トップダウンではなく、足元から地道に急がば回れ的に社会のシステムを一つ一つ変革することをしていこうとしてシミュレーション学研究科を立ち上げることにしました。

現代社会を支配している西洋的合理主義パラダイムから東洋的和の精神に依拠したパラダイムに転換し、新しいヒトが中心である社会とは何かを探ろうというのがシミュレーション学研究科の目指すところです。歯科の世界においても同様に技術・材料中心の発達だけでは、いずれ閉塞した状態になるのではと危惧されるのではないのでしょうか？

というわけで、

「モノ」「自然」の中心の西洋科学から「ヒト」「社会」中心のシミュレーション

学へというような課題でお話しできればと考えています。

2/11（祝）の講演会では普段、歯科医師のみなさんがあまり耳にしない内容の講演になるとおもいますが、これからの混沌たる日本で生活する上で参考になる内容をお話できるよう努力致しますので是非、ご来場下さい。